

電話帳

「タウンページ」

ほしい商品やサービスがあるのにお店や会社の名前がわからないとき、思いついた職業名やサービス名から電話番号や広告情報を探せるのが「タウンページ」です。

なお、インターネットや携帯電話の普及により電話番号検索方法が多様化していることや、紙使用の削減による環境負荷低減の観点から、2026年3月31日をもって終了します。

相手の名前と住所がわかっているとき、名前から50音順に電話番号を探せる「ハローページ」は2023年2月をもって終了しています。

発行状況等

項目	東日本	西日本	合計
発行版数 (版)	155	213	368
発行部数 (千部)	11,715	14,908	26,623
本文掲載数 (千件)	1,967	2,662	4,629
総ページ数 (百万ページ)	2,051	2,249	4,300
広告掲載数 (千件)	47	69	116
用紙量 (千トン)	3.1	3.7	6.8

※上記の数値については、2023年度に発行した電話帳のもの。

(参考)点字電話帳

NTT東日本では、目の不自由な方の日常の電話利用にお役立ていただくため、点字電話帳を原則3年ごとに発行しており、タウンページ終了後も継続します。

発行地域は全エリアで、発行版数は30版、発行部数は17千部です。配布方法は、社会福祉法人日本視覚障害者団体連合に加盟している協会などの関係団体や地方自治体などを通じて、ご希望される方に無料で提供しています。

掲載されている情報は、公共機関、福祉施設、電気・ガス・水道、医療機関、交通機関など暮らしに関わる情報のほか、緊急ダイヤルや各種相談、テレホンサービスなどの収録地域全体に共通する情報を市町村別に掲載しています。

環境に配慮した電話帳の発行

電話帳用紙は、木材を原料とする純正パルプと、古紙を原料とする再生パルプからつくられます。純正パルプは、紙をつくるために植えて育てた木材（植林木）や、家を建てたときに余った木材などを原料としたものを使用しており、この純正パルプの使用を減らし、再生パルプの配合率（古紙配合率）を高めていくことにより環境に配慮しています。

また、電話帳印刷には植物油インキを使用するとともに、背のりなどの購入時には、有害な化学物質を含まないものを選ぶよう電話帳印刷会社に協力を呼びかけ、環境負荷低減を推進しています。

タウンページデータベース

「タウンページデータベース」とは、「タウンページ」に掲載される情報を、地域別・業種別などに加工・編集したリストとして、提供するサービスです。

「タウンページデータベース」は、お客さまが自社顧客データベースの構築やDM・テレマなどの営業活動に活用されるほか、国産カーナビや110番の通信指令台などで導入されています。

タウンページデータベースは、2026年3月31日で終了しますが、NTTタウンページ社が提供するiタウンページのデータを利用したiタウンページデータベースとして引き続き提供します。

(参考) 企業情報 約560万件、約1,900業種（2024年3月31日現在）

iタウンページ【NTTタウンページ（株）提供】

「iタウンページ」は、全国のさまざまな業種のお店や施策などの情報を提供しているポータルサイトで、スマートフォンのブラウザや専用アプリからも利用することができます。また、お店・施設の情報に加えて、病院探しや症状チェック、薬を調べることができる「病院検索iタウン」など、利用者・消費者にとって「嬉しい、良かった」と感じてもらえる便利な情報により、地域とくらしのメディアとして、役立つサービスを提供しています。

○iタウンページ <https://itp.ne.jp/>

○病院検索iタウン <https://medical.itp.ne.jp/>

(参考) 月間ページビュー数 : 240,707千PV
月間ユニークユーザー数 : 2,366千UU（2023年度平均）

電話帳の主な歴史

- 1890年 電話開通と同時に日本で最初の電話帳「電話加入者人名表」を発行（電話番号順、縦書き）
- 1897年 「電話番号簿」の名称が電話交換局事務規定で制定され、統一的に使用される
- 1898年 「電話番号簿」の本文の配列を電話番号順からイロハ順に改正
- 1925年 本文配列を50音順（アイエオ順）に改正。また、形式も縦書きから横書きとなる
- 1931年 「電話番号簿」に初めて「広告」を掲載
- 1951年 職業別分類の電話番号簿が生まれ、「職業別電話番号簿」「人名別電話番号簿」の2つの電話番号簿が発行されるようになる
- 1959年 「人名別電話番号簿」を「50音別電話番号簿」と名称を変更
- 1971年 「電話番号簿」を「電話帳」と改称し、「職業別電話帳」「50音別電話帳」となる
- 1974年 73年秋の石油ショック以降、電話帳の用紙節減のため、収録区域の分割による分冊化と、発行周期の延長（1年から1年半）を実施
- 1983年 「職業別電話帳」をタウンページ、「50音別電話帳」をハローページとする愛称の決定
- 1984年 「タウンページ」の発行周期を1年半から1年に短縮
- 1985年 各種「ニューページ」の発行開始
- 1986年 「CDタウンページ」を開発
東京23区に電話帳のコンピューター編集システムを導入
- 1989年 タウンページのレイアウト・職業分類改善
タウンページ情報販売開始
- 1990年 104の費用負担適正化に伴い、希望する地域のハローページの全国・全版無料提供の開始
点字電話帳の全地域における発行
- 1992年 64頁輪転印刷機の導入
- 1993年 マルチメディア電話帳誕生（パソコンネットでタウンページ検索サービスを開始）
- 1994年 新キャラクター「タウンページ君」登場
- 1995年 阪神・淡路大震災被災地に「フックユウライン電話帳」「ライフライン電話帳」を緊急配布
電話帳統合システムサービス開始（北陸・東北）

- 1996年 タウンページに4色カラー広告登場（黒・赤のほかに、青・緑を追加）
「インターネットタウンページ*」サービス開始（東京23区）
- 1998年 インターネットタウンページ*で全国のタウンページ情報が検索可能となる
*2000年より「iタウンページ」としてサービス提供
128頁輪転印刷機の導入
- 2000年 「ホワイトノックアウト広告」「フォトカラー広告」登場
- 2001年 ハローページ個人名編の希望者への配達実施
- 2002年 「フルカラー広告」登場
「ジャンプ広告」「フェイスオン広告」「特集広告」登場
- 2003年 「デイリータウンページ」「ビジネスタウンページ」順次全国導入開始（広島県から順次）
ディスプレイ1／1見開き広告登場
ハローページ「2色広告」登場
- 2006年 タウンページに職業分類のグルーピング導入
- 2007年 「URL広告・E-mail広告」「ディスプレイ13／8広告」「ディスプレイ13／4見開き広告」「アイコン（インコラム広告・コメント広告オプション）」登場
タウンページの職業分類グルーピングページへサイドカラーを導入開始
- 2011年 タウンページのWeb閲覧サービス「タウンページライブラリー」提供開始
- 2012年 「タウンページ+行政情報」発行開始
編集方法の見直しにより、デイリータウンページとビジネスタウンページを合冊化開始
- 2013年 ディスプレイ広告とスマートフォンと連動した「つながるタウンページ」サービス開始
- 2014年 行政情報をはじめとした地域情報を充実させるとともに、生活シーン別の目次を設けるなどの編集改善による新タウンページ発行（高崎市、甲府市）
- 2015年 新タウンページ 全国導入
- 2019年 電話帳の発行周期の見直しにより、順次18カ月周期化開始
- 2020年 ハローページは2021年10月以降に発行・配布する最終版をもって終了することを公表
- 2023年 ハローページはすべての版で発行を終了
- 2024年 電話帳（タウンページなど）を2026年3月31日をもって終了することを公表